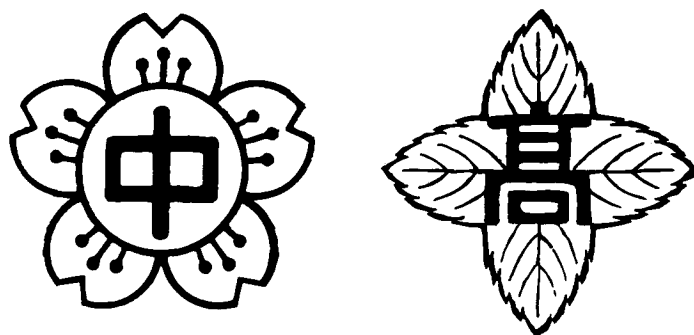


甲府中学・甲府一高 創立百三十周年記念事業報告書



- ・事業報告
- ・収支決算書
- ・寄付者芳名簿

平成23年3月
甲府中学・甲府一高
創立百三十周年記念事業協賛会

御 挨 拶

ご協力に心から感謝申し上げます

創立130周年記念事業協賛会 会長 望月 政男

学校、PTA、同窓会の三者で構成する母校創立130周年記念事業協賛会が平成20年5月に発足し、基本的な考えとして「募金は広く浅く」「事業はハードではなくソフトに」と決め、このコンセプトに沿って事業を進めてまいりました。

同窓会については従来のこうした募金は学年役員が学年単位で集めていました。学年の組織が出来ている学年と卒業して間もなくでまだ組織化されていない学年、全国に散っている同級生への連絡の難しさ、学年役員への加重などが問題視されていました。

今回の130周年の募金については協賛会が全国の同窓生2万2千人に一口5千円、募金目標3千万円で募金を呼びかけることにしました。大勢の友人は「こんなご時世にとても集まらないよ」と忠告してくれました。しかし私には心ひそかに期するものがありました。「甲府一高には130年の伝統がある。すばらしい校是がある。文化がある。それゆえ母校を愛する卒業生が大勢いる」という確信からです。

目標金額3千万円も最初から成算があった訳ではありません。事業も募金が集まらなると何も実行できません。果たして集まるのかとても不安な出発でした。何よりも勇気づけられたのはまだ募金を正式に始める前にこの話を聞きつけた昭和17年卒業の塚原敏夫先輩が「同級生から集めてきたよ」と言って高額の募金を持ってきてくださったことです。もちろん募金第一号です。不安でスタートした我々役員は強く鼓舞されました。

その後順調に募金は全国から集まり、学校やPTAの募金も加わり式典のあった平成22年10月の段階で目標を大きく超えて約4千万円に達しました。この募金は大勢の皆様のご厚志であり大切に所期の目的のように「生徒のため」に使わせて頂きました。このような今回の募金方法によって同窓会本部と全国で活躍している同窓生がネットワークで結ばれたという成果も得ることができました。

学校・PTAの皆様、全国にいる同窓会の皆様のご理解とご協力により協賛会の会長という大任をはたすことができましたことに心から感謝申し上げます。皆様のご健勝ご活躍と母校のますますの発展を祈念して感謝の言葉に代えさせていただきます。

平成23年3月吉日

謝 辞

校長 跡部 和

平成20年5月に「創立130周年記念事業協賛会」を立ち上げて以来、計画、実行されてきた一連の記念事業が、130周年記念誌刊行をもって完了いたしました。マイクロバス更新、自習室新設、HP更新、日新基金創設、資料展示コーナー開設、記念式典・演奏会開催、記念誌刊行と、本校の教育活動推進に大きな効果をもたらす事業を実施していただき、誠に有難うございました。

保護者の皆様、同窓会の皆様、教職員より、県内は元より、全国津々浦々から寄せられた協賛金は、昨今の厳しい経済事情にもかかわらず目標額を大きく上回り、本校に対する熱い思いと期待に、感激と同時に精励格勤の意を新たにいたしました。ご厚志を賜りました皆様と並々ならぬご尽力をいただきました募金担当の皆様に心よりお礼申し上げます。

各事業実施につきましては、それぞれ実行委員会や策定委員会を組織し準備に当たって頂いたわけですが、各委員の皆様にはご多忙の中、何度も会合を持ち検討を重ね、また資料調査・収集に県内外各地に足を運ばれるなど、一意専心のご尽力をいただき誠に有難うございました。

本校は、このたび実施していただいた記念事業を追い風に、今後更なる発展をめざし努力していく所存であります。記念事業にご協力いただいた皆様に重ねて深甚なる感謝の意を表しますとともに、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げ、お礼のご挨拶といたします。

創立130周年記念事業協賛会

◇創立130周年記念事業協賛会役員

1	会長	望 月 政 男	同窓会会長
2	副会長	齋 藤 義 一 西 山 正 盛 佐 藤 茂 樹	P T A 会長 〃 〃
		小田切 常 雄	同窓会副会長
		飯 島 善一郎	東京同窓会副会長
		赤 池 亨 高 橋 博 之	教頭 〃
		3	役員
丸 茂 中 藤 嶋 眞美子 楳 窪 一 浩 長 田 浩 一 鷹 野 一 雄	P T A 副会長 〃 〃 〃 〃		
依 田 訓 彦	同窓会庶務		
田 中 茂 樹	同窓会会計		
戸 栗 敏 金 丸 信 吾 大久保 広 行	同窓会監事 〃 〃		
大 西 勉	同窓会事務局長		
宮 下 仁 河 澄 芳 男	教頭 〃		
堀之内 秀 一 露 木 和 雄	事務長 〃		
加 藤 忍 雨 宮 絹 枝	総務主任 〃		
野 澤 俊 英	総務副主任		

創立130周年記念事業協賛会 経過・実施報告

平成20年

4月8日	◇「創立130周年記念事業協賛会（以下協賛会）」準備会。 ・・・学校、PTA、同窓会の代表により「創立130周年記念事業協賛会」の設立が全会一致で承認される。
5月17日	◇「協賛会」発足。 ・・・同窓会総会、PTA総会で承認される。
6月6日	◇第1回「130周年記念事業協賛会役員会（以下協賛会役員会）」 ・・・記念事業案の検討。
9月4日	◇第2回「協賛会役員会」 ・・・記念事業案の検討。
10月22日	◇第3回「協賛会役員会」 ・・・記念事業案（記念式典・記念演奏会・日新基金・自習室・ホームページ・マイクロバス・記念誌&記念品・甲府一高資料展示）の決定。
11月18日	◇第4回「協賛会役員会」 ・・・趣意書、募金方法の決定。

平成21年

1月11日	◇「記念事業協賛募金の趣意書」発送。 ◇募金活動の開始。 ◇記念事業の準備。
2月4日	◇第5回「協賛会役員会」 ・・・趣意書、募金方法の決定。
6月5日	◇第6回「協賛会役員会」 ・・・趣意書について。新年度役員・役割の決定。募金状況報告。
7月23日	◇第7回「協賛会役員会」 ・・・自習室新設・マイクロバス更新の選考実施決定。募金状況報告。
9月1日	◇自習室完成。（特別教室棟2階 仕切・照明スタンド付30席）
9月25日	◇第8回「記念事業協賛会役員会」 ・・・自習室会計報告。マイクロバスのロゴ決定。記念行事日程細案決定。募金状況報告。
11月11日	◇マイクロバス購入納車（トヨタコースター29人乗）
11月27日	◇第9回「協賛会役員会」 ・・・マイクロバス経過報告。日新基金内規決定。募金状況報告。

平成22年

4月	◇ホームページリニューアル公開
4月22日	◇第10回「創立130周年記念事業協賛会役員会」 ・・・新年度役員・役割の決定。募金状況報告。 各事業（記念式典、記念演奏会、記念誌、日新基金、資料館）の進捗状況報告と今後の取り組みについて
6月2日	◇第11回「協賛会役員会」 ・・・募金状況報告。各事業（記念式典、記念演奏会、祝宴・ゴルフ大会、記念誌、日新基金、資料館）の進捗状況報告と今後の取り組みについて。
7月6日	◇第12回「協賛会役員会」 ・・・募金状況報告。各事業（記念式典、記念演奏会、祝宴・ゴルフ大会、記念誌、資料展示）の進捗状況報告と今後の取り組みについて。日新基金事業〔生徒を国際通貨基金（IMF）、世界銀行へ派遣〕の決定。
9月22日	◇130周年記念ゴルフコンペ 境川CC 24学年180名参加 団体優勝一昭和36年卒
9月30日	◇第13回「協賛会役員会」 ・・・募金状況報告。各事業（記念式典、記念演奏会、祝宴・ゴルフ大会、記念誌、資料展示）の進捗状況報告と今後の取り組みについて。日新基金事業派遣生徒の決定。
10月20日	◇資料展示完成
22日	◇記念行事実施 県民文化ホール ・記念式典 13:00~13:55 開会 国歌斉唱 校歌斉唱 式辞 祝辞 来賓紹介 事業報告 生徒会長挨拶 感謝状贈呈 閉会 ・記念演奏会 14:30~16:00 森山威男セクステッド・本校吹奏楽部 ・記念祝賀会 17:00~ アピオ甲府

創立130周年記念事業「甲府一高資料展示」策定委員会 報告

「甲府一高資料展示」策定委員会

委員長 伊藤 嘉雄（元校長）

委員 三井 誠（総合教育センター所長）

委員 長田 浩一（PTA副会長）

委員 飯島善一郎（東京同窓会副会長）

委員 松野 互（同窓会代表）

委員 河澄 芳男（教頭）

委員 雨宮 絹枝（総務主任）

委員 五味 武彦（学校評議員）

委員 茂手木 寛（同窓会副会長）

委員 大西 勉（同窓会事務局長）

委員 深澤 太郎（同窓生代表）

委員 露木 和雄（事務長）

委員 石田 泰道（総務係）

敬称略

◆「甲府一高資料展示」策定委員会実施日

第1回 平成22年5月21日（金）

第2回 平成22年6月30日（水）

第3回 平成22年7月29日（木）

第4回 平成22年8月30日（月）

第5回 平成22年12月16日（木）

第1回「甲府一高資料展示」策定委員会

□日時・場所 平成22年5月21日（金）16時00分 日新館1階研修室

□参加者 策定委員、望月政男同窓会長及び跡部和校長

□議 事

1 目的及び視点について（審議）

目 的

創立130周年記念事業の一環として、未来を担う一高生の向学心や豊かな人間性、母校愛を育むことを目的に、諸先輩が築き上げた学校の歴史を伝え、同窓生・関係者の優れた業績等を顕彰し、各種資料の展示を行う。

視 点（基本方針）

一高生が広く日本や世界に目を向けるように、高い志の涵養に資する人物及び業績に着目して選定した。特に、発揮された個性や創造性、時代に先駆けた意味などを出来るだけ明らかにすることに努めた。また、原則として、国内的・国際的に活躍した物故者とする。

2 具体的な策定作業について

（1）顕彰パネルの設置場所の検討

（2）優れた業績を残された同窓生等の顕彰について（人物の候補）検討

（3）本校の歴史を象徴する書画等の展示について（書画等の候補）検討

（4）本校へ多大な貢献を行った方々の顕彰パネルについて（人物の候補）検討

（5）創立130周年記念事業協賛募金10口以上の寄付者名揭示パネルについて

（6）甲府一高の沿革及び校名変遷について

3 策定作業工程について（審議）

（1）各展示場所及び顕彰する人物や書画等の選定完了（6月下旬）

（2）顕彰する人物の顕彰文、書画等の説明文の原案作成等完了（7月下旬）

- (3) 顕彰する人物の顕彰文、書画等の説明文検討完了(8月下旬)
 (4) 顕彰文の添付資料収集及び著作権・版權等の許諾作業等完了(9月中旬)

4 策定委員会実施予定(確認)

第2回	平成22年6月30日(水)
第3回	平成22年7月29日(木)
第4回	平成22年8月30日(月)
第5回	平成22年12月16日(木)

5 校内巡視：設置場所や書画等の状況確認作業

第2回「甲府一高資料展示」策定委員会

□ 日時・場所 平成22年6月30日(水) 16時30分 日新館1階研修室

□ 議 事

1 資料展示場所について

視聴覚教室及び同教室の南北の廊下の壁面と決定

2 展示資料候補について

- (1) 甲府第一高等学校沿革及び校名の変遷
 (2) 創立130周年記念事業協賛募金10口以上の寄付者名揭示パネル
 (3) 人物の顕彰パネルについて 以下の15名を顕彰することとする。

1 大島 正健	1859(安政6)年-1938(昭和13)年	第7代本校校長
2 江口 俊博	1873(明治6)年-1946(昭和21)年	第10代本校校長
3 早川 徳次	1881(明治14)年-1942(昭和17)年	「日本の地下鉄の父」
4 石橋 湛山	1884(明治17)年-1973(昭和48)年	第55代内閣総理大臣
5 中村 星湖	1884(明治17)年-1974(昭和49)年	「フランス文学の先駆的紹介者」
6 笠井 重治	1886(明治19)年-1985(昭和60)年	「大正・昭和期の代表的な日米親善活動家」
7 内藤 多仲	1886(明治19)年-1970(昭和45)年	大正・昭和期の建築構造学者、「耐震構造の父」
8 飯田 蛇笏	1885(明治18)年-1962(昭和37)年	大正・昭和期の代表的俳人、『雲母』主催
9 野尻 抱影	1885(明治18)年-1977(昭和52)年	本校英語教師、英文学者、随筆家、天文民俗学者
10 三神 吾朗	1889(明治22)年-1958(昭和33)年	米国のプロ野球チームで活躍した日本初のプロ野球選手
11 望月 春江	1893(明治26)年-1979(昭和54)年	「日本画院」創始者、日展審査員
12 木々高太郎	1897(明治30)年-1969(昭和44)年	小説家・推理作家、大脳生理学者
13 小林 中	1899(明治32)年-1981(昭和56)年	初代日本開発銀行総裁、財界の世話役、相談役
14 功力金二郎	1903(明治36)年-1975(昭和50)年	日本の代表的数学者、抽象空間や位相空間の研究
15 飯田 龍太	1920(大正9)年-2007(平成19)年	戦後俳壇の代表的人物、日本芸術院賞・恩賜賞

- (4) 書画等の展示について 以下の13品を展示することとする。

1 望月 定夫	「猫 ひまらやん」	日本画 卒業五十周年記念 1930(昭和5)年卒業生寄贈
2 三枝 茂雄	「四神図」	日本画 1937(昭和12)年本校卒 元本校教諭 国画会会員 1987(昭和62)年卒業生寄贈
3 須藤 獺	「トランプ」	日本画 1933(昭和8)年本校卒 元本校教諭 東京美術学校卒業制作コンクール一席作品
4 山川 輝夫	「育くみの間より 花と乙女」	油彩 1959(昭和34)年本校卒 1985(昭和60)年卒業生寄贈
5 笠井重治筆	「七絶書」	1903(明治36)年本校卒 元国会議員 日米文化振興会会長等を歴任
6 石橋湛山筆	「湛山先生から甲府中学生徒一同への手紙」	

- | | | |
|----|-------|--|
| 7 | 石橋湛山筆 | 「Be Gentleman」 |
| 8 | 石橋湛山筆 | 「Boys be Ambitious！」 |
| 9 | 石橋湛山筆 | 「得魚忘筌」「魚を得て筌を忘る 昭和辛卯(昭和26年)十二月五日 湛山」 |
| 10 | 数野 繁夫 | 「花梨のある処」 油絵 1959(昭和34)年本校卒 創立130周年記念寄贈 |
| 11 | 米倉 寿仁 | 「紫いろにほのめく古都」 アクリル画 1922(大正11)年本校卒 サロン・ド・ジュワン会員 |
| 12 | 鈴木農夫男 | 「快晴の鳳凰山」 油絵 元本校教諭 一水会、山梨美術協会会員、峡北美術協会会長 |
| 13 | 佐野 智子 | 「原」 油絵 元本校教諭 創元会・山梨美術協会会員、創元展出品作 創立百周年在職記念に寄贈 |

(5) 本校へ多大な貢献を行った方々等の顕彰文について 以下の1～4にまとめることとする。

- | | | | |
|---|----------------------------|--------------------------|-----------|
| 1 | 「甲府第一高等学校・同窓会奨学金 高遠啓一」について | | |
| 2 | 強行遠足の沿革 | (1)「強行遠足」の始まり (2) コースの変遷 | |
| 3 | 強行遠足の関係 | ■「臼田のおばあちゃん」こと依田トミ子さんのこと | ■丸山良雄氏のこと |
| | | ■柏木宇三郎氏のこと | ■岡部勝男氏のこと |
| 4 | 須賀金次郎様他3名への感謝パネル(日新館敷地寄贈者) | | |

3 顕彰する人物の顕彰文及び書画等の説明文の原案作成者決定

第3回「甲府一高資料展示」策定委員会

☐ 日時・場所 平成22年7月29日(木) 16時30分 日新館1階研修室

☐ 議 事

- 1 「甲府一高資料展示」についての目的とその選定視点についての最終確認
- 2 甲府第一高等学校沿革・校名変遷について(原案審議)
- 3 本校へ貢献を行った方々の顕彰文について(原案審議)
- 4 人物の顕彰文について(原案審議)
- 5 書画等の展示に係る説明文について(原案審議)

第4回「甲府一高資料展示」策定委員会

☐ 日時・場所 平成22年8月30日(月) 16時30分 日新館1階研修室

☐ 議 事

- 1 「甲府一高資料展示」の各顕彰文及び書画等説明文の最終決定
- 2 顕彰パネルの配置モデル案について最終決定

※視聴覚教室南側廊下壁紙張替工事

☐ 日時 平成22年9月25日(土) 終日

※書画等の修復等

☐ 日時 平成22年10月14日(木) 終日

☐ 場所 百周年記念館2階会議室

※「甲府一高資料展示」取付工事

☐ 日時 平成22年10月20日(水) 終日

第5回「甲府一高資料展示」策定委員会

☐ 日 時 平成22年12月16日(木) ※「甲府一高資料展示」総括

創立130周年記念誌編集経過報告

記念誌編集委員

委員長 高橋博之

委員 依田訓彦（同窓会） 水村 勝（同窓会） 大西 勉（同窓会事務局長） 鷹野一雄（PTA）
依田 源 加藤 忍 雨宮絹枝 野澤俊英 石田泰道 井上正子 齊藤正敏 日野原雪子
堀口秀樹 大久保雅司 望月靖公 中島奈美 雨宮千春（外部編集者）

平成20年10月22日	第3回「創立130周年記念事業協賛会役員会（以下協賛会役員会）」において創立130周年記念誌の発行決定。
平成21年6月5日	第6回「協賛会役員会」において平成21年度の編集係決定。
平成21年11月27日	第9回「協賛会役員会」において記念誌の概要（全体構成・サイズ・発行部数など）決定。
平成22年4月22日	第10回「協賛会役員会」において平成22年度の編集係と完成予定期日（平成23年1月）決定。
平成22年6月2日	第1回「編集委員会議」において編集計画作成。
平成22年7月6日	第12回「協賛会役員会」において記念誌編集の進捗状況報告。
平成22年7月28日	第2回「編集委員会議」において編集方針・編集計画・編集担当など確認。
平成22年8月17日	第3回「編集委員会議」においてページ割り・撮影計画など検討。
平成22年9月30日	第13回「協賛会役員会」において全体構成確認。
平成22年10月22日	創立130周年記念式典および記念演奏会撮影。
平成22年12月3日	第4回「編集委員会議」において細部構成・掲載資料検討。
平成22年12月10日	第5回「編集委員会議」において細部構成・掲載資料検討。
平成22年12月28日	第6回「編集委員会議」において細部構成・掲載資料検討。
平成23年2月21日	創立130周年記念誌発行

平成22年度 第1回日新基金プロジェクトの実施について

1 日新基金運営委員

委員長	望月政男（同窓会会長）	委員	高橋博之（教頭）
副委員長	佐藤茂樹（PTA会長）	委員	雨宮絹枝（総務主任）
副委員長	小田切常雄（同窓会副会長）	委員	野澤俊英（総務副主任）
委員	茂手木寛（同窓会副会長）		

2 これまでの経過

平成20年10月22日 第2回創立130周年記念事業協賛会役員会（以下協賛会役員会）において、記念事業案が決定。

平成21年11月27日 第9回協賛会役員会において、日新基金運営規約決定。

運営規約は以下のとおりである。

【名 称】

第1条 この基金は山梨県立甲府第一高等学校（以下「甲府一高」という）創立130周年記念事業として設立され、日新基金と称する。

【目 的】

第2条 この基金は甲府一高の生徒、教職員が自主的に企画した活動を支援することにより、個性的で創造性に富み、卓越した指導力を持つ生徒を育成することを目的とする。

【補助金】

第3条 補助金の予算額は年間100万円とし、平成22年度から5年間、甲府一高創立130周年記念事業協賛募金より充当する。

【運 営】

第4条 甲府一高の教職員、PTA、同窓会の三者で構成する日新基金運営委員会（以下 運営委員会）を設置し、基金の運営全般をおこなう。

2 運営委員会は、原則として前後期1回ずつの募集及び審査をおこなう。

【事後報告】

第5条 参加者は、企画実施後1ヶ月以内に、決算報告書と感想文を運営委員会に提出するものとする。

【その他】

第6条 この規約に定めるものの外、運営に関し必要な事項がある場合は別に定める。

平成22年4月12日 日新基金活用プロジェクトの募集案内を教室に掲示。

複数の案が出された。

平成22年6月2日 日新基金運営委員会において、IMF・世界銀行およびワシントンDC視察案が、本年度の日新基金プロジェクトに内定。本校を昭和46年に卒業し、財務省財務官を経て、現在副専務理事としてIMFに勤務する篠原尚之氏の活躍が現下の世界経済情勢の中で話題となっていることから、本校生徒のIMF見学・篠原氏との会見が企画されることとなった。

平成22年7月6日 第12回協賛会役員会において、IMF・世界銀行およびワシントンDC視察案（3月実施）が、本年度の日新基金プロジェクトに決定。

平成22年7月23日 IMF・世界銀行およびワシントンDC視察プラン参加希望生徒のための説明会を開催。

平成22年9月1日 本年度の日新基金プロジェクトに5名の生徒が申し込み、各自の企画案を提出。その後、5名の生徒全員に、面接を実施。

平成22年9月30日 第13回協賛会役員会において、参加者を以下の3名に決定。

NO	クラス	男女	氏名
1	1-1	男	小林 大起
2	1-7	女	若尾 萌
3	2-2	女	森本 菜月

平成22年10月22日 創立130周年記念式典において、今年度の日新基金プロジェクトについて、担当の野澤が説明。

平成22年12月20日 職員会議で、本年度の日新基金事業詳細案承認。

3 平成22年度・第1回日新基金プロジェクトの事業内容

(1) 日程 平成23年3月15日(火)～20日(日)(5泊6日)

(2) プロジェクト内容

アメリカ・ワシントンにおける国際通貨基金(IMF)、世界銀行の視察
ホワイトハウス、国会議事堂、リンカーン記念館、スミソニアン博物館等の見学

(3) 参加者(上記の3名)

(4) 旅行業社 JTB甲府支店(担当者 榊原誠一氏)

(5) 現地宿泊予定ホテル

Holiday Inn Washington Georgetown
2101 Wisconsin Ave NW, Washington DC, DC 20007

(6) 日程の概要

3月15日(火) 甲府を出発→ワシントン到着

3月16日(水) 終日:ワシントン(ホワイトハウス、国会議事堂、リンカーン記念館等を見学)

3月17日(木) 終日:ワシントン(IMF・世界銀行を視察)

3月18日(金) 終日:ワシントン(スミソニアン博物館等を見学)

3月19日(土) ワシントンを出発→帰国の途へ

3月20日(日) 甲府に到着

3月17日(木) のスケジュール(現段階での案)

10:00～11:00 春木さん(IMF職員)からIMFの業務説明

11:00～11:15 Ms. Graciela(日本理事室秘書)との面会

11:15～11:30 日本理事室訪問、IMF理事会等視察

11:30～12:00 篠原副専務理事へ表敬訪問

12:00～13:20 ランチ(@IMF カフェテリア)、IMF施設視察

世界銀行へ移動

13:30～14:30 世銀理事室から世界銀行の業務説明

14:30～15:00 世界銀行内の視察

(7) 事前指導の計画

以下のとおり、5回のオリエンテーション、及び指導を行った。

第1回(12月9日)生徒へのオリエンテーション(旅行社担当出席)概要説明、パスポートの取得、IMF・世界銀行についての調べ学習等について。

第2回(1月27日)生徒・保護者オリエンテーション(旅行社担当出席)日程、事前指導計画、旅行保険、諸手続等について。

第3回(2月9日)語学研修及びIMF・世界銀行についての事前学習。保健衛生、健康管理について。

第4回(2月14日)語学研修及び各自の研究課題について。

第5回(2月23日)最終確認(旅行社担当出席)

(8) 事後指導の計画

各自の「研究課題」に基づいて、感想文集を作成させる。

(9) 参加生徒一人当たりの経費の概算 230,000円

甲府第一高等学校創立130周年記念事業協賛会会計

収 支 計 算 書 (見込)

平成20年4月1日から平成23年1月31日まで

収入の部

単位：円

科 目	既収入額	見込額	決算見込額	備 考
I 同窓会・基金会計より繰入	(5,261,682)	(0)	(5,261,682)	
II 協賛金収入	(39,888,447)	(500,000)	(40,388,447)	
1 P T A (H20・21・22年度卒業記念)	1,116,447	500,000	1,616,447	(H22年度は見込額)
2 母校職員 (現職・元職)	2,040,000	0	2,040,000	
3 同窓会員	36,632,000	0	36,632,000	
4 石橋湛山記念財団	100,000	0	100,000	
III 預金利子	(4,673)	(0)	(4,673)	
合 計	(45,154,802)	(500,000)	(45,654,802)	

支出の部

単位：円

科 目	既支払額	見込額	決算額	備 考
I 事業費	(23,106,641)	(14,813,265)	(37,919,906)	
1 日新基金	(0)	(5,000,000)	(5,000,000)	
日新基金繰入	0	5,000,000	5,000,000	(日新基金5ヶ年分)
2 自習室の新設	(5,404,832)	(120,000)	(5,524,832)	
自習室設備工事・備品購入費	5,404,832	0	5,404,832	
自習室参考書	0	120,000	120,000	
3 マイクロバスの更新	(7,841,460)	(3,265)	(7,844,725)	
マイクロバス21年～29年度リース料及び振込料一部	7,841,460	0	7,841,460	マイクロバス9年間リース料。管理・整備・保険等一切の費用を含む。
マイクロバス23年～29年度リース料の振込料一部	0	3,265	3,265	
4 広報事業	(4,824,350)	(140,000)	(4,964,350)	
同窓会HP作成、運営管理、ドメイン年会費	727,800	0	727,800	
HP管理運営費22年10月～23年3月	0	90,000	90,000	
学校用HP作成費	840,000	0	840,000	
資料展示コーナー作成費	3,256,550	0	3,256,550	
資料コーナー銘板	0	50,000	50,000	
5 式典・祝賀会・記念誌・記念品	(5,035,999)	(4,850,000)	(9,885,999)	
記念式典・記念音楽会、出演料、案内状作成費、郵送費等	2,568,076	0	2,568,076	
祝賀会諸費用	974,693	0	974,693	
記念誌印刷費	53,130	3,800,000	3,853,130	(H23年3月発送予定)
記念誌・記念品送料	0	1,050,000	1,050,000	同上
130周年記念品代金	1,115,100	0	1,115,100	同上
記念ゴルフ大会経費補助	325,000	0	325,000	
6 夏期エアコンの設置	(0)	(4,700,000)	(4,700,000)	
全学年エアコンレンタル料 (3ヶ年) 等	0	4,700,000	4,700,000	
II 事務費	(6,955,621)	(779,275)	(7,734,896)	
同窓会報作成印刷費	1,645,775	0	1,645,775	4回作成
130周年記念事業募金趣意書・同窓会報、印刷費、発送費	2,160,147	0	2,160,147	
会員名簿・協賛会用封筒・名刺等作成費	1,599,155	0	1,599,155	
募金集計システム処理費	1,506,982	0	1,506,982	
諸雑費	43,562	0	43,562	
報告書作成費	0	400,000	400,000	
事務費・渉外費等予備費計上額	0	379,275	379,275	
合 計	(30,062,262)	(15,592,540)	(45,654,802)	

※既収入額から既支払額を控除した残額は、下記口座残高の通りです。

既収入額	45,154,802	山梨中央銀行 No.1256085	13,251,000	H23.1.31残
既支払額	30,062,262	山梨中央銀行 No.1257686	1,841,540	H23.1.31残
差 引	15,092,540	計	15,092,540	

以上の通り報告致します。

平成23年2月7日

甲府第一高等学校創立130周年記念事業協賛会

事務局 長 大 西 勉

会 計 田 中 茂 樹

監査の結果、上記の収支計算書の通りであることを報告致します。

平成23年2月9日

同窓会監事 金 丸 信 吾

P T A 監事 中 込 徹

創立130周年記念事業寄付者芳名

順不同。敬称略

石橋湛山記念財団 100,000円

理事長

石 橋 省 三

学校職員 2,040,000円

元職員

三澤弘毅	廣瀬重雄	関口稔夫	雨宮惇	奥石順一
長坂昭雄	川手千興	弘間正友	向山栄一	加藤正明
奥石和雄	石倉正身	斉藤幸三	島口邦昭	山本紘治
山寺一三	榎田興二	久津川孝	齐木圭二	保坂さつき
小山忠明	奥田正直	神津幸穂	大久保和樹	曾根珠子
横森孝徳	矢嶋夏江	土屋美穂栄	神澤公男	

備考：平成19年度以前の同窓職員については同窓会員芳名簿の卒業学年に掲載されております。

平成20年～平成22年度職員

新津元	跡部和	赤池享	宮下仁	内田大介
高橋博之	河澄芳男	松野正士	堀之内秀一	露木和雄
横田勉(学校評議員)		日野原雪子	雨宮絹加奈子	松本美千彦
砂澤雄一	齋藤章	飯島清樹	井上淳子	川崎義人
小宮山隆	加藤忍	望月祐子	能美淳子	宮坂肇
萩原真慈	渡辺春二郎	山本英樹	依田俊宏	高橋正文
大久保雅司	藤森一樹	渡邊浩一	鈴木康敬	並木由貴子
望月光紀	権太正弘	古畑澄人	石井康和	中澤仁誠
根津真中	山賀国康	藤巻敬秀	進藤理恵	鶴田英行
穎川尚哉	小林理恵	花輪和勲	藤山下京子	湯泉富美子
松島弘奈美	小長田光之	猪又島恭司	村松みえ子	風野みよ子
中有泉ゆきみ	井上正子	伴野恭司	土橋み啓子	小山真規子
鶴田恵子	浅川治	曲渕晃敏	千野幸彦	高橋理恵子
秋山智恵岐	三枝靖公	齊藤正ひろ子	功森茂樹	武藤一輝
芦澤由純一	堀口秀樹	芹沢隆香	三崎一輝	石井裕久
辻本章子	西室直哉	小宮山晴	標輝澄人	高島亮太
日田泰道	中澤達彦	大木格	剣持島桂	矢崎賢一
野澤俊英	三枝恭仁	長澤純子	中島桂	水奈由美

P T A (H20・21・22年度卒業記念)

20年度卒業記念 592,191円

22年度卒業記念(見込) 500,000円

1,616,447円 (H22年度は見込額)

21年度卒業記念 524,256円

甲府中学・甲府一高創立百三十周年記念事業 協賛募金 結果報告

H21年3月3日からH22年10月30日

同窓会員募金総額	36,632,000円
----------	-------------

同窓会学年別募金集計一覧

総額 36,632,000円 人数 2,447人

卒業年	人数	寄付金(円)	卒業年	人数	寄付金(円)	卒業年	人数	寄付金(円)	卒業年	人数	寄付金(円)
昭和1		0	昭和26	32	525,000	昭和51	16	415,000	平成元	2	55,000
昭和2		0	昭和27	73	845,000	昭和52	20	311,000	平成2	2	10,000
昭和3	1	10,000	昭和28	59	715,000	昭和53	18	735,000	平成3	3	15,000
昭和4		0	昭和29	66	755,000	昭和54	52	435,000	平成4	3	15,000
昭和5		0	昭和30	169	2,636,000	昭和55	34	205,000	平成5	5	75,000
昭和6	1	100,000	昭和31	69	1,025,000	昭和56	27	250,000	平成6	3	110,000
昭和7	2	55,000	昭和32	105	1,345,000	昭和57	10	125,000	平成7	6	175,000
昭和8	3	60,000	昭和33	56	920,000	昭和58	8	40,000	平成8	2	35,000
昭和9	1	10,000	昭和34	188	6,230,000	昭和59	11	80,000	平成9	3	15,000
昭和10	2	20,000	昭和35	111	1,080,000	昭和60	6	135,000	平成10	4	25,000
昭和11	1	5,000	昭和36	42	980,000	昭和61	4	30,000	平成11	1	5,000
昭和12	16	260,000	昭和37	98	1,700,000	昭和62	5	120,000	平成12	2	25,000
昭和13		0	昭和38	106	1,475,000	昭和63	4	20,000	平成13	1	5,000
昭和14	4	80,000	昭和39	116	1,250,000	小計C	215	2,901,000	平成14	3	20,000
昭和15	3	25,000	昭和40	37	670,000				平成15	4	70,000
昭和16	6	165,000	昭和41	79	955,000	明治26	1	50,000	平成16	5	25,000
昭和17	38	530,000	昭和42	87	910,000	大正7	1	50,000	平成17	3	15,000
昭和18	16	245,000	昭和43	23	310,000	大正13	1	50,000	平成18	6	30,000
昭和19	25	270,000	昭和44	43	700,000				平成19	7	40,000
昭和20	39	700,000	昭和45	56	475,000				平成20	6	30,000
昭和21	18	165,000	昭和46	48	630,000				平成21	14	120,000
昭和22	29	215,000	昭和47	51	510,000				小計D	85	915,000
昭和23	33	635,000	昭和48	35	375,000						
昭和24	18	130,000	昭和49	18	725,000				一紅会	1	100,000
昭和25	87	695,000	昭和50	32	350,000						
小計A	343	4,375,000	小計B	1799	28,091,000				甲府市役所 一高会	1	100,000

山梨県立甲府第一高等学校同窓会

あとがき

母校創立百三十周年記念事業は、皆様のご厚志により目標金額を大幅に上回る募金が集まり、すべての事業を当初の予定よりかなり充実した内容で実施することができた。さらに募金の一部を母校とPTAが切望する全学年全教室の夏季エアコン・リース料3か年の基礎基金として生徒にプレゼントすることも可能となった。他の活動についても言えることであるが、とくに募金活動を通じて甲府一高にかかわる縁（えにし）のありがたさ、母校を舞台とする絆の強さを再認識した。記念事業協賛会の事務方に任じられ募金活動に直接従事して、胸が熱くなる事例に数多く出会った。それは最近新聞、テレビでよく話題となる酷薄非情の「無縁社会」とは正反対の「有縁社会」そのものであった。これを全部綴れば〈百三十周年募金 一高物語〉とでも題する冊子ができるだろう。題名は〈甲府一高賛歌〉のほうが適当かもしれない。

思いつくままにいくつか紹介したい。

※同窓会員Fさんは、故人となった祖父（元同窓会長）、伯父、父君が甲府中学出身で、故人への思いを込めて、本人を含めて4人のお名前が高額の募金をお寄せくださった。

※元同窓会長で数年前他界されたKさんのお宅へ伺い夫人と坐談をした折、記念事業にも話題が及んだ。夫人は、Kさんをしのび存命であればKさんも先頭で協力してくれたであろう、主人にかわってとその場で募金に協力してくださった。

※東京の女性会員Mさんは、長く入院していて、その時期に届いた趣意書を見る機会がなかった。退院して事業と募金を知り、筆者に電話でわざわざお詫びの意を伝え、翌日多額の募金を頂戴した。

※いつも同窓会活動を熱心にご協力の常任理事のMさんは、同級生のさまざまな会合に加え、告別式で出会った同級生にも募金を呼びかけ、後半段階になると電話で「君の分は私が立て替えておいたからな」という徹底振りであった。

またMさんは、2人のIさんとともに、東京の大企業を経営する同級生のKさんのところにも同道してくださり、筆者と引き合わせてくれた。筆者が臆面もなく「甲府一高健在を世に知らせる意味もこめて〇を2つでお願いできたらうれしいです」と言うのと「わかりました」と一言、あとは雑談となり、翌日言葉どおりの振り込みがあった。

※もっとも迫力ある一言で同級生を説得したのは、昭和10年代卒業のT先輩である。年金生活をしていることを理由に募金に消極的な友人にブラック・ユーモア風に次のように言ったそうである。「次の周年事業の時は俺たちは募金をしたくても、郵便局も、銀行もない所に居るだぞ！」

※石橋湛山翁と石橋湛山記念財団からは母校も同窓会も何かにつけ深い思いを寄せていただいている。筆者は財団の理事長をされている翁の令孫である石橋省三氏には面識があり東京でお会いする機会を得た。記念事業について言及したら、学校や同窓会と財団との関係あることですから、と高額の募金を頂戴することになった。

※今回の募金の大きな特徴は、北海道から九州・沖縄まで全国各地から熱い母校愛が寄せられたことである。異郷の地で活躍する同窓会員と母校、同窓会がこの事業によってつながったことに深い感動を覚えた。

※元職員、現役の先生がたからも高額の募金を頂戴した。筆者が電話で謝意を伝えたのに対し、同窓ではない元校長のひとり、「私は甲府一高の出身ではありませんが、甲府一高を第二の母校、いやそれ以上のように大事に思っています。」と応じてくださった。

※PTAの皆様には卒業記念の形で何年間もご協力いただき、H22年度は有志により学校環境整備事業の特別寄付を集めていただいた。

※身びいきで恐縮であるが、望月会長と筆者も同級生の昭和34年卒（山紫会）の並ばならぬ友愛にどれほど励まされたかわからない。

協賛事業を通じて直接間接に経験したさまざまな出来事や多くの皆様との出会いを追懐して脳裏に去来する思いは、ご協力いただいたすべての皆様への感謝の一語に凝縮される。

衷心より御礼申し上げます。

創立130周年記念事業協賛会 事務局長 大西 勉

**甲府中学・甲府一高
創立百三十周年記念事業協賛会**

山梨県甲府市美咲 2 - 13 - 44

山梨県立甲府第一高等学校内 事務局

TEL 055 - 253 - 3525 ・ FAX 055 - 253 - 3527

HP <http://www.first.kai.ed.jp/>

同窓会会員各位

送付御案内

このたび母校創立130周年記念事業に目標を大きく上回る募金をお寄せいただき、所期の事業をすべて実施することができました。そのうえに130周年事業以外に、母校の全学年全教室へのエアコン設置のプレゼントも加えることができました。

本日下午記のとおり報告書ほかご送付申し上げ、記念事業協賛会のすべての活動を完了させていただきます。

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

記

1. 創立130周年記念事業報告書
2. 創立130周年記念誌
3. 創立130周年記念誌特集「われら同級生」
4. 甲府一高資料展示リーフレット
5. 記念品

平成23年3月

甲府中学・甲府一高

創立130周年記念事業協賛会